日本平公園基本計画改定（案）の概要

1 計画改定の目的

日本平公園は、有度丘陵の頂上付近から 360 度のパノラマが展望できる公園で、その眺望の価値の重要さから、公園計画区域の約半分が文化財保護法による「名勝」の区域に指定されています。

これまでは 2008 年3月に策定した日本平公園基本計画に基づき、名勝の保存に配慮した眺望鑑賞のための整備を進めてきました。今後は、眺望観賞とともに、散策や休養、イベント等にも活用できる公園としていく必要があります。名勝日本平の価値を適切に保存し、多くの人に体感してもらえる公園とするため、基本計画を改定します。



【写真①】日本平夢テラスからの眺望


【写真②】吟望台の石碑
名勝指定のきっかけを作った「徳富蘇峰」が選定した眺望地点の一つ


【写真③】芝生広場からの眺望

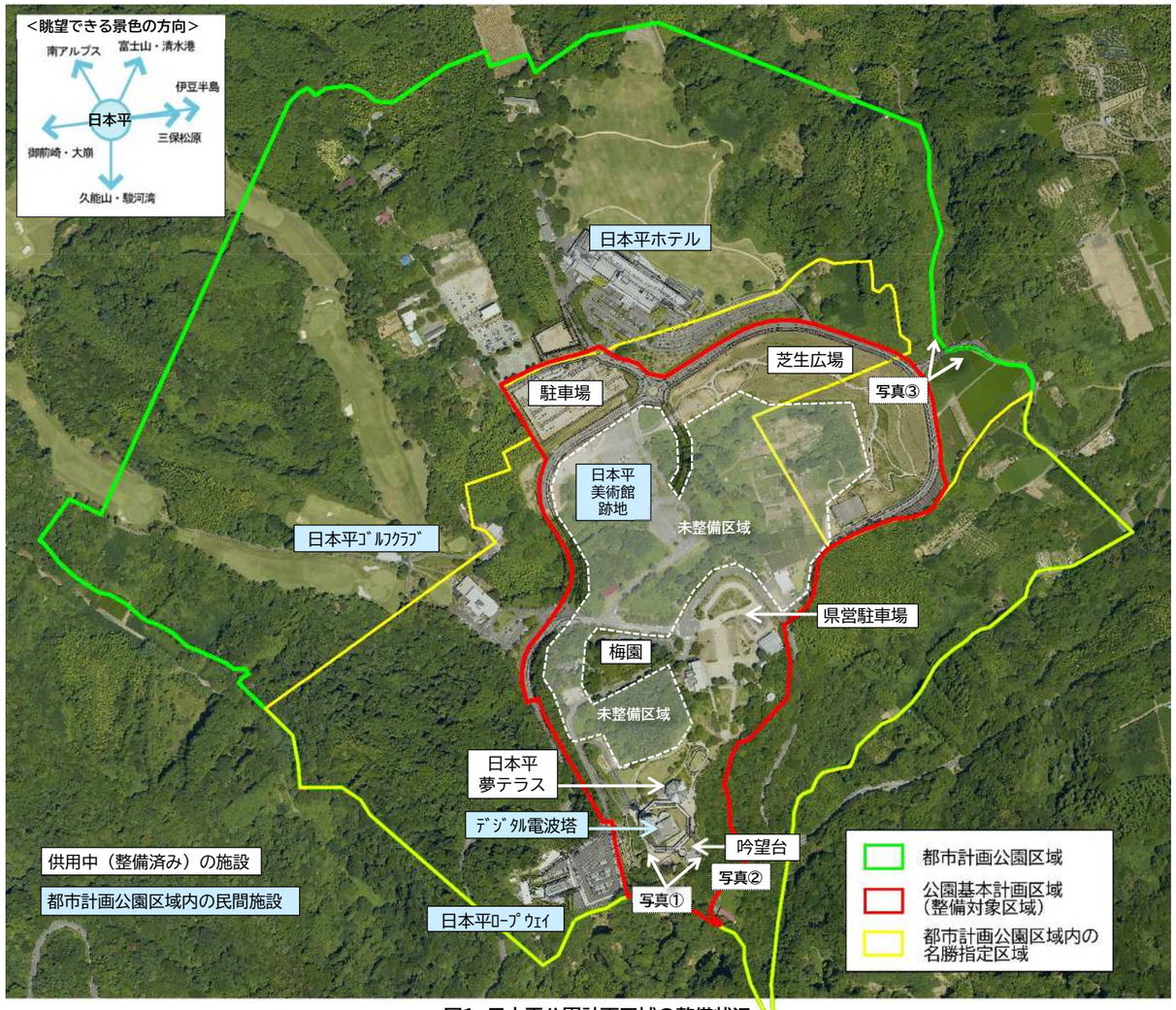


図1 日本平公園計画区域の整備状況

2 現状・課題の整理

日本平公園の整備は、静岡市の第5次総合計画において「観光・スポーツ・文化」分野の目指すべき未来像を実現するための施策として位置付けられています。

総合計画に掲げる目指すべき未来像を日本平公園基本計画の理念として、日本平公園の現状と課題を「名勝」「観光」「公園マネジメント」の3つの視点で整理し、課題の解決策となる取組の方向性を検討しました。

【基本計画の理念＝第 5 次総合計画・目指すべき未来像】
食、スポーツ、芸術、歴史など多様な文化で人々の心が豊かになるまち
来訪者の増加を通じて地域経済が潤っているまち

表 日本平公園の現況・課題、課題解決に向けた取組の方向性

分 類	現 状	課 題	課題の原因	取組の方向性
名 勝	・日本平の本質的な価値は、優れた360度の眺望と自然環境、歴史、伝承、人々の顕彰・活動等の日本平を取り巻く周辺環境が重なり合って形成されている。 ・文化財の持続的な保存のため、観光や地域振興に活用していく視点が求められており、2026年3月には「名勝日本平保存活用計画」が策定された。	・日本平の本質的な価値の保存は、主体となる眺望とともに、眺望を取り巻く周辺環境も一体的に保存する必要がある。 ・名勝自体の価値の保存と活用を両立する必要がある。	・眺望を取り巻く周辺の茶畑や樹林地の管理は、耕作者や所有者に依存しており、担い手の高齢化や後継者不足などによって維持が困難になってきている。 ・日本平の本質的な価値を活用しながら持続的に保存していく仕組みがない。	・来訪者が名勝の本質的な価値を体感できる場を提供することにより、日本平の活用や管理の担い手を増やし、名勝の本質的な価値の持続的な保存と活用の両立に取り組む。
観 光	・日本平公園の来訪者の約8割は観光目的で、夢テラス等の展望施設や久能山東照宮と併せた通遊型の利用が中心となっている。 ・清水港の外国クルーズ船寄港回数は急激に増加しているが、日本平の観光客数はピーク時から減少し、コロナ禍前の水準に回復していない。 （2019年：200万人 ⇒2025年：140万人） ・繁忙期には交通渋滞や駐車場の不足が生じている。	・市の観光政策では、滞在時間の短さや観光消費額の低さが課題となっている。 ・クルーズ船乗客等のインバウンド需要の増加が、日本平の観光客数の増加に繋げられていない。 ・日本平公園と周辺観光地への周遊にはアクセス面で制約がある。	・日本平公園の既存施設の魅力は「眺望観賞」であるが、その眺望を楽しみながらの散策や休憩、眺望と関連した地域文化の体験など、「滞在型」の施設やサービスが提供できていない。 ・日本平公園の立地特性から、アクセス手段が自動車に依存している。	・日本平公園を広域的な観光の主要な拠点と捉え、周辺の観光施設間との周遊利用や多様な交通手段に対応できるよう、駐車場等の交通結節点の改善に取り組む。 ・園内施設において、地域の食や歴史、文化体験の場を提供するとともに、イベント等の活動の場としての機能を拡充し、来訪者が滞在しながら利用できる空間づくりに取り組む。
公 園 マネジメント	・来訪者へのアンケートでは、雨の日も眺望を楽しめる施設や子どもと遊べる施設の充実、イベント開催や観光情報の発信を求める回答が多い。 ・整備開始から15年以上が経過し、新たな施設整備とともに、適切な施設管理が必要。	・限られた財源や人員の中で、老朽化していく施設の更新・修繕に加え、多様化する来訪者の憩いや余暇の過ごし方、体験・活動の需要等に応じたサービスを提供していく必要がある。	・現在の計画は、眺望を楽しむための施設整備が中心であり、整備後の施設管理や利用の促進などの管理運営の視点が不足している。	・施設使用料などを施設管理やイベント・情報発信等のサービスに還元する仕組みを検討するとともに、施設整備と管理運営の両面において公民連携の事業手法を導入し、持続可能な公園マネジメント体制の構築に取り組む。

日本平の本質的な価値は、優れた四周の眺望とそれを取り巻く周辺の自然や歴史、人々の営みが重なり合って形成されている景観＝「風景」であり、この貴重な名勝の価値＝「風景」を、来訪者の憩いや体験、地域の観光振興のために最大限に活用しながら、将来に渡って適切に保存していく必要があります。

現在の日本平公園は、眺望観賞を目的とした短時間の利用が主体であり、名勝の価値を十分に活用できていません。今後は、市民をはじめ、さらに多くの人に名勝の価値を体感してもらえる場所となるよう、滞在しながら利用できる施設の整備とともに、来訪のきっかけとなるイベントや情報発信等の利用の促進に取り組む必要がありま

3 目指す将来像

課題解決に向けた取組の方向性から、日本平公園の目指す将来像を設定しました。

名勝の価値＝「風景」を最大限に活用し、来訪者に体感してもらえる場所とすることで、日本平を利用する人が増え、さらに活用が進み、地域が活性化する「好循環」が生まれます。日本平公園の整備によって、人々の心が豊かになるまち・地域経済が潤っているまちの実現に貢献していきます。

【目指す将来像】

訪れた人が心地よく過ごし、絶景の感動体験ができる公園

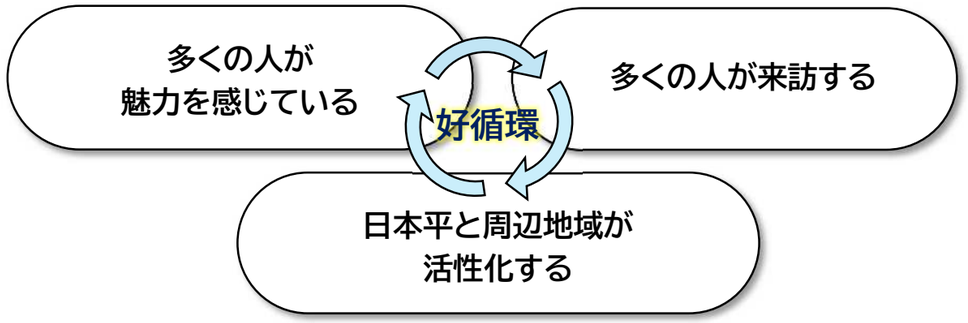


図2 目指す将来像の実現によって生まれる『好循環』のイメージ

4 計画の基本方針

公園の目指す将来像と、計画当初からテーマとしている**『風景美術館＝日本平』**の実現に向け、次の3つの基本方針に沿った取組を実施し、名勝の価値＝「風景」を体感できる公園としての機能をさらに高めるとともに、市民や観光来訪者の散策・休養、イベント等にも活用できる公園としていきます。

【基本方針】

① 季節や時間の変化を感じながら「風景」の中で過ごせる公園づくり
② 「風景」にまつわる歴史や文化を体験できる公園づくり
③ 多くの人と 名勝の価値＝「風景」を共有し、日常的に活用できる公園づくり

【主な取組の内容】

回遊性の向上、滞在型の利用への対応

日本平公園を、短時間で眺望を楽しむ場所にとどめず、回遊、滞在しながら利用できる公園に転換します。また、市内観光の拠点として、周辺の観光・文化・自然資源とのつながりを強化し、日本平を起点とした周遊や滞在を促進します。

⇒公園の中央に情報発信、飲食・休憩等の**来訪者のおもてなし機能を備えたビジターセンター**や、**イベントスペースを整備**し、雨の日や富士山が見られない日でも、多様な目的で利用できる空間を設けます。

⇒視点場間を結ぶ園路整備とともに、植栽等の修景により**移動そのものが楽しめる空間づくり**を行います。また、巡回バスや低速電動カートの導入等により、快適に園内を回遊できる仕組みを検討します。

⇒新たなモビリティ等の多様なアクセス方法にも対応可能な駐車場等のエントランス空間を整備します。

歴史文化体験機能の向上

日本平の「風景」を形成する自然環境、歴史、伝承、人々の顕彰等を学び、体験できる環境を創出します。

⇒**徳富蘇峰が選定した眺望地点や富士見の視点場づくり**による眺望地点の充実に加え、映像やデジタル技術等を活用した**資料展示、体験茶畑等の学習施設を整備**します。

多様な主体が関わる公園マネジメントの推進

日本平公園の整備をきっかけとして、市民や地域団体、観光関係者、民間事業者などの多**様な主体が関わる管理運営体制を構築**し、「風景」の適切な保存と活用を促進します。

5 『公民連携』による事業推進

本計画が掲げる「目指す将来像」の実現には、整備後の適切な施設管理に加えて、周辺地域と連携した情報発信等による利用の促進や、日本平の風景の構成要素として重要な茶畑・周辺緑地の保全などを一体的に実施していく必要があります。しかし、担い手の不足や財政制約といった厳しい条件のもと、市の力のみで今後の必要な取組みを進めていくことは困難です。市が公共事業として主動しつつ、市民や地域団体、観光関係者、民間事業者などの多様な主体が参画・連携することにより、それぞれの知恵を集めながら、公園づくりに取り組む必要があります。

公民連携による公園づくりの手法には、PFIや公募設置管理制度（Park-PFI）、指定管理者制度等の様々な手法があります。他事例では、立地条件や期待する効果、公園の種別等によって、公民連携の手法を組み合わせて実施しているケースが多くみられます。日本平公園においても、様々な条件を整理したうえで、ヒアリング等によって民間事業者との対話を行いながら、最適な公民連携による事業推進方法を検討していきます。

＜整備イメージ図＞



＜施設計画の主な変更内容＞

現在の計画（夢テラス整備後）



＜計画の特長＞

名勝の価値の保存に配慮した眺望観賞が中心の計画

No	見直しの内容	現在の計画（夢テラス整備時）
①	ビジターセンター	公園総合案内と管理事務所を兼ねた「公園センター」を公園の中央に配置しています。
②	中央広場	公園の中央部分には芝生広場を計画しています。
③	大芝生広場	公園中央から北側の地形を活かして富士山方向に開けた芝生広場を整備し、眺望を楽しみながら散策できる園路を配置しています。
④	駐車場	必要台数分を平面駐車場で確保し、バス専用駐車場は公園の中央に配置しています。
⑤	アプローチ道路	ホテル、公園入口、ロープウェイ駅間の車両動線は、現況の道路形状を活かした道路線形としています。
⑥	園 路	主な施設間はバリアフリー園路を配置し、公園中央から南側は傾斜が急なため、電動カート利用を前提とした計画としています。
⑦	茶 畑	「富士山と茶畑」の景観づくりに取り組む計画としています。
⑧	眺望地点	名勝指定のきっかけをつくった「徳富蘇峰」が選定した眺望地点である「吟望台」の整備が完了しています。

⇒

変更後の計画



＜眺望できる景色の方向＞

＜計画の特長＞

名勝の価値の保存に配慮した眺望観賞 ＋ 散策や休養・イベント等での活用を促進する計画

No	見直しの内容	変更案（2026年）
①	ビジターセンター	日本平を楽しむための拠点となる「ビジターセンター」として、駐車場から直結した位置に場所を変更し、公園の総合案内に加え情報発信機能、体験学習機能等を充実させます。
②	中央広場	公園中央の広場を拡張し、屋根付き広場を設け、雨天時・猛暑時の滞在場所やイベントスペースとしても活用します。
③	大芝生広場	ビジターセンターの前庭となる部分に花壇や植栽地を設けます。芝生広場内にデッキ・日よけ等の施設を充実させ、散策・滞在しやすい空間を整備します。
④	駐車場	分散していた駐車場をビジターセンター直結の位置に整備します。計画地を広場等の用地に活用するため立体化等を検討します。緑化等によりアプローチ道路や公園内からの景観に配慮します。
⑤	アプローチ道路	ホテルから公園入口、ロープウェイ駅間の道路線形を変更し、公園中央の広場や夢テラスから富士山方向の眺望を確保します。
⑥	園 路	現況の地形を活かしながらも、電動カート対応のバリアフリー園路を充実させることにより、園内周遊の利便性と快適性を向上させます。
⑦	茶 畑	既存の茶畑を公園基本計画区域に取り込む等により景観の保全を図るとともに、体験学習施設として有効に活用します。
⑧	眺望地点	名勝の価値を体感できる眺望地点として、「徳富蘇峰」が選定した「鐘秀台」への散策ルートを新たに整備します。